

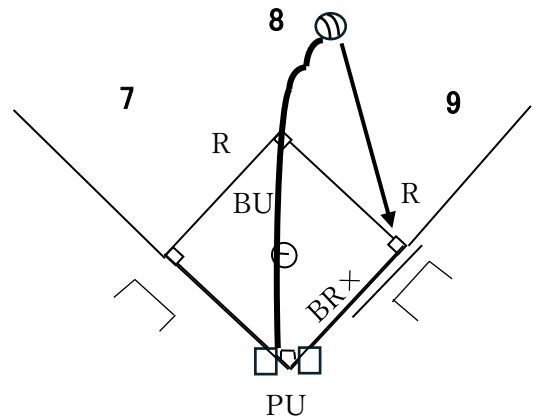
ボールを持たない野手と打者走者の接触

2026/5/30

二人制の試合での出来事である。1アウト走者2塁・1塁、1塁手は前進守備をし、打球と同時に本塁めざしてダッシュした。しかし、打者は鋭くバットを振り切り、センターへのライナーとなった。ツーバウンドした打球を中堅手が捕って、1塁へ送球し、塁審はホースアウトをコールした。ところが前進した1塁手と打者走者が接触しておりオブストラクションだと攻撃側の監督から球審に抗議があった。球審はその接触を見ていなかった。そこで、塁審と協議をしたが塁審も見えていなかった。守備側からは「3フィートの内側を打者走者が走っていたからオブストラクションではないぞ、打者走者が悪いんだ」というヤジもとび、かなり緊張した場面となった。審判員は見えていなかった。どのあたりで接触したかもわからず、見ていないものを判定できないとして、正直に「見ていなかったのだから確認できないから、判定通り一塁アウトで走者3塁・2塁で試合を再開します」と説明した。さて、このケースの場合、審判員はどのように仕事をこなせばよかったのか。

BU(塁審)の仕事は、①打球判定②2 塁の触塁と 2 塁付近での走塁妨害を確認(プレイの判定) ③1 塁の触塁と 1 塁を回るときの走塁妨害を確認(プレイの判定)、④3 塁のプレイの判定。

PU(球審)の仕事は、プレイ全体を見て、①走者の3塁の触塁と打者走者の1塁到達までの走塁妨害を確認、②本塁のプレイの判定である。つまり打者走者が1塁に向かっている状態での走塁妨害は球審が判定しなければならない。このケースではタッグアップはないので球審は3塁に上がらないで本塁付近で仕事をすることになる。



また、守備側からは3フィートの内側を打者走者が走っていたからオブストラクションではないというヤジがとんだそうだが、これに振り回されてはいけない。これは本塁付近から一塁に送球する際に3フィートの外を走っていて一塁手の守備を妨害した場合に限られるので、今回のケースは的外れなヤジである。球審は自分の仕事を怠ったことを深く反省すべきである。

雨の中での最終回

2026/6/某日

グランドには水が浮いてこない状態だったので、雨の中で試合は続行され、最終回の1

アウト、走者2・1塁まで進んでいたとき、投手板付近で投手がボールを落とした。投手がプレートで踏んでいたかどうか球審には確信がなかった。しかし塁審は投手がプレートを踏んでいないのを見ていたので、ボークを宣告しなかった。攻撃側のベンチからは投手がプレートを踏んでいたという声でざわついていた。その後、投球がなされ打者は内野ゴロを打ち、一塁でホースアウトになり試合は終了した。その後で負けたチームの監督が審判員に投手がプレートを踏んだ状態でボールを落としたのでボークをとるべきだ。また、こんな雨の中で試合を続行するのはおかしいと5分以上抗議。審判団は試合終了後の抗議は受け入れないと伝えたということであった。では、この度の監督の言動について審判団はどのように対応すればよかったのだろうか。

投手がプレート付近でボールを落とした時に、ポジション的に投手板に近い位置にいる塁審が「ザッツ ナッシング」のコールを入れる必要があったと考える。これによって、塁審はしっかり見ていることをアピールできる。

雨の中での試合については、監督から一時中断すべきだという申し出があったかどうかである。また、申し出に対して審判団がどのような対応をしたのか。この日は雨が降り続く予報だったと記憶している。だから中断するより水が浮いてない状態なら試合を続行する判断をしていることを伝えたであろうと推測する。

試合後の抗議は認められないのは言うまでもない。

では、抗議はいつまでなら行うことができるのだろうか？

8.02(b)

「審判員の裁定が規則の適用を誤って下された疑いがあるときには、監督だけがその裁定を規則に基づく正しい裁定に訂正するように要請することができる。しかし、監督はこのような裁定を下した審判員に対してだけアピールする（規則の適用の訂正を申し出る）ことが許される。

同【注】

「審判員が、規則に反した裁定を下したにもかかわらず、アピールもなく、定められた期間が過ぎてしまった後では、たとえ審判員が、その誤りに気付いても、その裁定を訂正することはできない。」

とある。では、上記の、定められた期間が過ぎてしまった後（下線は筆者がつけたもの）の「定められた期間」については、

投球カウントの訂正…投手が次の打者へ1球を投じるまで

…イニングや試合の最終打者の場合には守備側のチームのすべての内野手がフェア地域を離れるまで

ハーフスイングのリクエスト…投手が次の1球を投じるまで

…イニングや試合の最終打者の場合には守備側のチームのすべての内野手がフェア地域を離れるまで

…投球しなくてもその前にプレイをしたりプレイを企てるまで

(捕手が盗塁を刺すために塁へ送球した場合は、投球に続く一連のプレイであるので、送球直後にリクエストは可能)

と明記されているが、不正位打順についてのアピールは別の明記があるので要注意。また、試合終了の場合には本塁前に整列してしまえば監督の抗議は受け付けることはできない。

打順の誤り

2026/5月某日

久々に打順の間違いが生じたことを耳にした。この間違いに審判員が気付いても「何人にも注意を喚起してはいけない」とされているので、審判から打順の誤りを指摘することはできない。この誤りを指摘(アピール)できるのは誰であろうか。そこで以下のようなケースを考えてみた。

2アウト走者2塁で、正規の打者はAであるが、Aの次のBが打席に入り、左中間を抜くヒットを打った。2塁走者は3塁を回り本塁に爆走。打者走者のBも1塁を回り2塁に向かったが外野からの返球でタッグアウトになった。まず、球審の仕事を考えてみよう。2塁走者の3塁触塁の確認は勿論、タイムプレイで得点が入ったかどうかをコールしなければならない。3アウトでチェンジとなり得点が入ったとしよう。では守備側の監督が打順の誤りを指摘(アピール)できるのは、いつまでだろうか。

6.03(b)には以下のような記述がある。

- (1)「不正位打者が打撃を完了した後、相手方がこの誤りを発見してアピールすれば、正位打者はアウトを宣告される。」
- (3)「不正位打者が打撃を完了したときに、**守備側チームが“投手の投球、前に球審にアピールすれば**、球審は(A)正位打者にアウトを宣告する。(B)不正位打者の打球によるものか、または不正位打者が安打、失策、四球、死球、その他で一塁に進んだことに起因した、すべてに進塁および得点を無効とする。」

【注1】「(3)(5)(7)項でいう**“投手の投球、とは、投手が次に面した打者(いずれのチームの打者かを問わない)へ1球を投じた場合はもちろん、たとえ投球しなくてもその前にプレイをしたりプレイを企てた場合も含まれる。”**

よく勘違いしている人がいるが、チェンジとなってすべての内野手がファウルラインを越えてしまっても、**次の打者に投球するまでは不正位打者へのアピールはできる**のである。よって、この例題のケースは、攻守が入れ替わって投球される前であればアピール権は残っており、アピールされれば不正位打者のヒットで入った得点はとり消されることになる。

不正位打順

2026/7/21

先日、仲間たちと集まった折に、攻撃側の監督から不正位打順があったことが話題になっ

た。勿論、次打者にまだ投球される前のことである。この不正位打者をアウトにできるかどうかで意見が分かれた。

では、規則書の内容を確認してみよう。

6.03b 「打順の誤り」の(1)(3)では、不正位打者が打撃を完了したときに正位打者に球審がアウトを宣告できるのは、相手方（守備側チーム）がアピールしたときであることが記載されている。そして、「不正位打者の打球によるものか、または不正位打者が安打、失策、四球、死球、その他で一塁に進んだことに起因した、すべての進塁および得点を無効にする。」

【6.03b 原注】「審判員は、不正位打者がバッターボックスに立っても、何人にも注意を喚起してはならない。各チームの監督、プレーヤーの不断の注意があつて、初めて本項の適用が可能となる。」

【例題 1】「A の打順に B がバッターボックスに入つて、投球カウントが 2-1 となつたとき、

(a) 攻撃側が打順の誤りに気付いた。

(b) 守備側はアピールをした。」

【解答】「どちらの場合も、A はカウント 2-1 を受け継いで B と代わる。この際アウトはない。」

「攻撃側がアピールした場合もアウトにできる」と主張した友人たちの意見を要約すると

【6.03b 原注】「各チームの監督、プレーヤーの不断の注意があつて、初めて本項の適用が可能となる。」の文面は不正位打者の打撃は完了した直後でも適用されると考えられるし、ChatGPT では「アウトにできるということであつた」ということであつた。

もし、この様な例が生じたら皆さんどう考えるだろうか。

「プロではありえないだろうが、1 点ビハインドで向かえた最終回の裏、1 アウト走者 1 塁で打者は 9 番の A、A は不調でこれまですべて三振である。そこで、9 番打者ところに 1 番打者で長打力のある B が打席に入った。たとえ、不正位打順でアウトになつても再度打席に入ることができる。ホームランを打てる B に二度の打席を回すことができると考えた監督はあえて不正位打順という作戦をとらせる」卑劣な空想の世界ではあるが。野球のルールに悪さをしたものの勝ちというルールはない。この事を基本に置いてルールを考えるとたいへん解決するものである。

では、「6.03b(1)(3)」では、不正位打者の打撃完了後、守備側のアピールでアウトにできる記述があり、【例題 1】は、不正位打者の打撃の途中であれば、守備側だけでなく攻撃側の申し出があればボールカウントを引き継いで正位打者に代わることができるという内容である。文面通りに解釈すべきだと考える。また、ChatGPT の答えが 100%正しいと考えるのは危険であるが、聞き方によって回答が変わることもあり得るかと考え、私も以下の様に ChatGPT に問うてみた。

「野球の試合で、打者が打撃を完了した直後に攻撃側の監督から不正位打者であったと申し出があった。正位打者をアウトにすることができるか？」

ChatGPT の回答は以下のとおりであった。

「いいえ、正位打者をアウトにすることはできません。公認野球規則 6.03(b)『打順の誤り』では、不正位打者に対するアピールは守備側チームだけが行うことができます。この質問のケースでは、・不正位打者が打撃を完了した。・次の打者への初球が投げられる前である。・攻撃側の監督が『不正位打者だった』と申し出た。この場合、攻撃側には打順違反をアピールする権利がありません。そのため、審判員はその申し出によって正位打者をアウトにすることはできません。したがって**裁定は・正位打者をアウトにすることはできない。・守備側から適法なアピールがあった場合に限り、規則 6.03(b)に従って正位打者をアウトにすることができる。攻撃側の申し出だけではそのまま継続する。なお、審判員が自ら打順違反に気付いても、守備側からのアピールがなければ打順違反を適用することはできません。これは打順違反が『アピールプレイ』であるためです。**」

念のために、ChatGPT の回答も掲載したのだが、皆さんの解釈はどうであろうか。

余分であるが、不正位打者に対するアピール権の消滅は、次打者に一球投じたときである。たとえば、2アウト走者二塁で打者 A のところで B が打席に入り長打を打って、二塁でタッグアウトになり3アウトになったが、2塁走者が本塁を踏むのが早かった場合、球審は得点が入ったことを宣告しなければならない。しかしチェンジになっても不正位打順のアピール権はまだ残っているので、守備についた投手が一球を投じる前に先ほどの守備側の監督からアピールがあれば球審は正位打者の A にアウトを宣告して、先ほどの1点を取り消す宣告をしなければならない。

タイムプレイ

2026/6月某日

今月に入ってタイムプレイに対応できなかった事例が数例あったらしい。3アウトがホースプレイではない場合には、タイムプレイが生じるケースがあるので、バッターが打席につくときに、サイン交換をしておこう。タイムプレイで得点が入るのは、走者が第3アウトより、早く本塁を踏まなければならない。きわどいプレイになることもあるのでプレイが生じる塁と本塁の延長線に位置してプレイを観てほしい。ちなみに日本では第三アウトのコールはアウトが生じたら素早く宣告し、もし落球すればセーフを入れ直せと指導される。

しかし、このような場合でもアメリカの審判学校では、確実に捕球がされていることを確認してアウトのコールをするように指導を受ける。得点が入らなかった場合は「ノーランスコア」を2・3回バックネット裏の記録員に声とジェスチャーで知らせる。得点が入った場合は本塁を指さしながら記録員に「ザッツ ラン スコアー、ザッツ ラン スコアー、スコ

アー ザッツ ラン」と宣告して知らせよう。

最終回の裏、同点のまま2アウト走者2塁で、打者の打球が外野へ飛んでヒットとなった。走者は3塁を回り本塁に向かって爆走。打者は1塁を回って2塁に爆走しそこでタッグアウトになった場合、球審は得点が入ったかどうかを宣告しなければならない。この宣告をしないで選手たちが整列したら揉めることがある。または、明らかに走者の方が早く本塁に到達したからといって、球審は本塁前に整列させようと「集合」をかけてはいけない。その理由は理解できたであろうか。

ダートサークルは何のためにあるのか

2026/7/21

友人との話題で、同点でむかえた最終回の裏、1アウト満塁でフォアボールとなったとき、3塁走者は本塁を踏んだが、打者は喜びのあまり1塁へは行こうとしなかったので球審は打者走者を走塁放棄でアウトにして2アウト、得点を認めサヨナラゲームとなったという話題であった。では、このような場合、打者走者をアウトにするには、ダートサークルを出たらアウトにできるのか、ダッグアウトに踏み入れた場合にアウトにできるのか、はたまた適宜な時間がたっても1塁に進もうとしない場合とはどのくらいの時間を言うのだろうか等という意見で盛り上がった。

そこでまず、ダートサークルについてもう一度考えてみる必要があるのではないかと規則書を開くことにした。

5.05a(2)【原注】「第3ストライクと宣告されただけで、まだアウトになっていない打者が、気が付かずに、一塁に向かおうとしなかった場合、その打者は“ホームプレートを囲む土の部分、を出たらただちにアウトが宣告される。”

振り逃げの場合、打者走者が一塁に進もうとせず“ホームプレートを囲む土の部分、つまりダートサークルを出たら「一塁に進む意思がないと判断して」球審はアウトを宣告できる。

次に決勝点になる場合について、5.08b 最終回の裏、満塁で打者が四球、死球、その他のプレイで一塁が与えられた場合、三塁走者が本塁に触れるとともに、打者が一塁に触れるまで試合の終了を宣告してはならないことが明記されている。そしてペナルティには、三塁走者が**適宜な時間**がたっても本塁に進もうとしない、触れようとしなかった場合は得点を認めず、試合の続行を命じなければならない。2アウト後、打者走者が一塁に進もうとせず、かつこれに触れようとしなかった場合は、得点を認めず打者走者をアウトにして、試合続行を命じなければならない。では、**適宜な時間**とはどのくらいの時間だろうか。これは、試合終了時にアピール権が消滅するので、**両チームが本塁に整列するまでが適宜な時間**と解釈されている。

0アウトまたは1アウトのとき、打者走者が上記の様であれば得点は記録されるが打者走者はアウトが宣告される。ダートサークルの事は記述されていない。

投手についての確認事項 その1

2026/7/30

投手に関するルールについて、あまり知られていない事柄もあるようなので、最小限以下のものは、頭に入れておこう。

- ・ 監督から交代が告げられなくても
交代が認められてしまうケース…**投手板上に位置したとき 5.10(j)(1)**
- ・ 第1打者またはその代打者
に投球義務がある……………①先発投手、救援投手 5.10(f),(g)
……………②すでに出場している投手が**イニング初めにファウルラインを越え投手板に向かった場合 5.10(g)【注】**, (i)
……………③投手が塁上にいるまたは打席でイニングが終了し、ベンチに戻らずマウンドに行き**準備投球を開始した場合 5.10(i)**
- ・ 監督(またはコーチ)が1イニングに同一投手のもとへ二度行けば、その投手は自動的に試合から除かれる。5.10(ℓ)(2)……………**豊田市軟式野球連盟の試合では採用しているが、全日本軟式野球連盟では不採用。**
- ・ 同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外、他の守備位置に移ることはできない。……………**全日本軟式野球連盟では不採用。**
- ・ 監督(またはコーチ)が**マウンドに行き、ひとたびファウルラインを越えて引き上げたら**、その投手は、その時の打者に投球を続けねばならない。ただし、その打者に代打者が出た場合は、この限りではない。5.10(ℓ)【注2】…監督またはコーチがファウルラインを越えて引き上げた時点で球審は回数を宣告すること。
- ・ ハイブリッド投法…走者がいるときに球審に申告して行う。この投法はセットポジションの足の置き方から、自由な足を1歩引いて投球する投法。しかし、この足の置き方で自由な足を引かないでセットポジションと同じ投げ方で投げた場合やボールを持つ手を合わせて止めたら投球動作の中断でボークとなる。5.07(a)(2)【原注】

投手についての確認事項 その2 (監督がマウンドへ行く)

2026/7/26

先日の試合で、あるチームの監督がマウンドへ行き投手交代を告げ、救援投手がマウンドに上がり投球練習を終えた後でマウンドから降りて来てファウルラインを越えたときに「こ

の回のタイム1回です」と告げるとキョトンとした表情であったので、救援投手が投球練習始めたら引き上げないと監督がマウンドに行った回数にカウントされますと伝えると驚いていた。

競技者必携「規則適用上の解釈」P75に「イニングの途中で監督またはコーチが投手のもとへ行き投手交代をする場合 新しい投手がマウンドに到着し、その投手が準備投球を始めたならば、その監督またはコーチはベンチに戻らねばならない。もし、そのままとどまっていた場合は1回と数える。」と明記されている。

友人から電話で

2026/8/1

2アウト走者1・3塁、ボールカウント1-1の次の投球時に、1塁走者が2塁に盗塁を試みた。打者は空振りし捕手が2塁へ送球しようとした前方に出た。球審はコールしなかった。捕手の送球は2塁へ届き1塁走者がタッグされアウト(第三アウト)となった。しかし、3塁走者が2塁でのアウトより若干早く本塁に滑り込んでいたそうである。この試合では3アウトになって得点は記録されていなかったそうだが、試合を観戦していた人達で、これは得点になるのではないかと。また、打者の妨害を球審はとらなかったのではなく、取れなかったのではないかと。もし、0または1アウトでこの出来事が起きたら得点は認められるのだろうかなど議論が沸騰したようだ。

このケースをどう処置したらよいかを考えてみよう。

【6.03a3・4 原注】

「打者が捕手を妨害したとき、**球審は妨害を宣告しなければならない**。打者はアウトとなり、ボールデッドとなる妨害があったとき、走者は進塁できず、妨害発生の瞬間に占有していた…途中省略…塁に帰らなければならない。しかし、妨害されながらも捕手がプレイをして、アウトにしようとした走者がアウトになった場合には、**現実には妨害はなかったものと考えられるべきで、その走者がアウトとなり、打者はアウトにならない**。その際に他の走者は、走者がアウトにされたら妨害はなかったものとするという規則によって、**進塁も可能である**。…以下略」

今回の事例で正しくジャッジしようとするならば、

- ① 球審は妨害を宣告して、プレイを流す。
- ② 2盗のアウト(第三アウト)より早く3塁走者が本塁に滑り込んでいるので、得点が入ったことを宣告する。

という流れとなり、他の走者は進塁も可能だという点である。

これが0または1アウトで起きた場合は、タイムプレイではなくなるので、上記の①を行なうだけであるが、2盗アウトの後にボールカウントを示した方が親切である。